

# 「東洋文庫と六義園スタディーツアー」 参加者募集

公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)は国際間の理解と親善に寄与することを目的に、日本文化体験などのスタディーツアーを実施しています。

「東洋文庫と六義園スタディーツアー」では、2026年1月にリニューアルオープンした東洋文庫ミュージアムで展示「ニッポン再発見-異邦人のまなざし-」見学とグループワーク、江戸を代表する回遊式築山泉水庭園である六義園を巡り、ご自身の「日本へのまなざし」を振り返る機会とします。

日本の歴史に造詣を深めながら、多様な国や大学の学生同士交流できる機会ですので、ぜひご参加ください。

日時	令和8年3月8日(日) 12:30~16:20
場所	東京都文京区本駒込2-28-21「東洋文庫ミュージアム」 <a href="https://toyo-bunko.or.jp/">https://toyo-bunko.or.jp/</a> 東京都文京区本駒込6-16-3「六義園」 <a href="https://www.gotokyo.org/jp/spot/22/index.html">https://www.gotokyo.org/jp/spot/22/index.html</a>
内容	① 東洋文庫ミュージアム 見所紹介及びグループワーク(自己紹介・ミュージアム見学・ディスカッション) ② 六義園 見所紹介及び見学
募集人数	外国人留学生20人 (応募者多数の場合はご参加いただけない場合があります)
参加費	無料
応募資格 参加条件	①国内の大学、短大又は高専に在籍する在留資格が「留学」である者 ②JEESによるアンケート及びホームページへの写真掲載に協力できる者 ③日本語での説明の理解と日本語での会話が可能な者
応募方法	右下のQRコードを読み込み、申込フォームより応募
応募締切	令和8年2月12日(木)
結果通知	2月中旬までに応募者全員に参加可否をメールで通知します。

<主催・お問合せ先>

公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES) (<https://www.jees.or.jp>)  
学生支援部国際教育課企画係 E-mail [ix2@jees.or.jp](mailto:ix2@jees.or.jp)

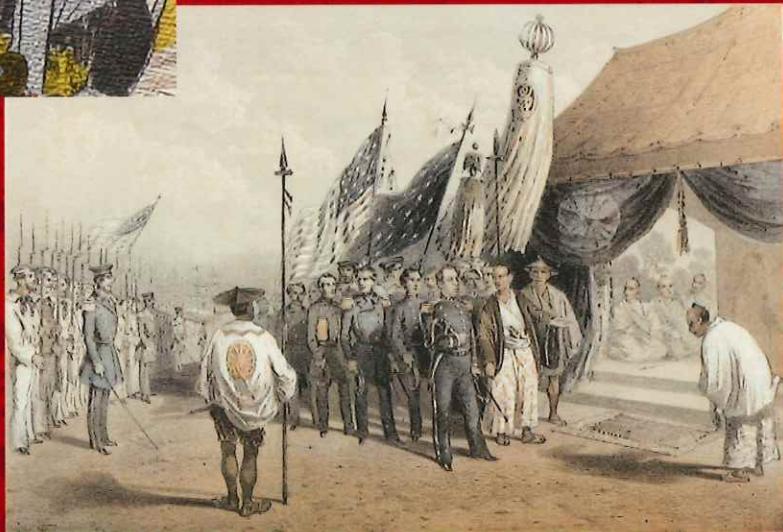


リニューアル・オープン記念

# ニッポン再発見

—異邦人のまなざし—

Rediscovery of Japan - Through Foreign Eyes -



2026年1月21日水～5月17日日

一般 1000円 65歳以上 900円 大学生 800円 高校生 700円 中学生以下 無料

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで） 休館日 火曜（祝日の場合は翌平日）

東洋文庫ミュージアム 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21 <https://toyo-bunko.or.jp/>

※記載の予定は変更となる場合がございますので、最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

東洋文庫  
ミュージアム

TOYO BUNKO MUSEUM



# 東洋文庫ミュージアム リニューアル・オープン!

東洋文庫ミュージアムは約1年の休館を終えて、1月21日より開館いたします。リニューアル・オープンをかざる本展では、マルコ・ポーロから小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）まで、日本における異文化との接触・交流の足跡、そして外から見た日本イメージの変遷をたどります。日本を訪れた外国人は、日本にどのような印象をもったのか、海外の文献のなかで日本はどのように記述されてきたのか、歴史的な出来事はどのように認識されていたのか？ 視点を変えると新鮮な気づきが沢山あるはずです。少し装いを新たにした東洋文庫で再発見しましょう。



邪馬台国とは？ 卑弥呼とは？

『魏志倭人伝（三国志 魏志）』  
陳寿撰 3世紀成立 1600年刊



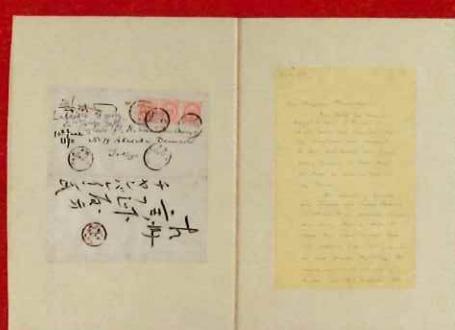
東西の出会いの物語

『東方見聞録』  
マルコ・ポーロ口述、ルスティッコ著 1485年刊



日英交流の始まりを伝える記録

『ジョン・セーリスの航海日記』（国指定重要文化財）  
ジョン・セーリス 1617年



小泉八雲の直筆レター

『ラフカディオ・ハーン書簡集』  
1890-96年



フランス人画家がとらえた明治の日本  
『トバエ』  
ジョルジュ・ビゴー 1887-89年刊



江戸時代の日本研究

『日本（NIPPON）』  
フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト 1832-52年刊

## ミュージアム講演会

2月7日 土 「旅行家イブラヒムとその時代－イスラーム世界と日本」

14:00～15:30 講師：小松久男氏（東京大学名誉教授、東洋文庫研究員）

3月1日 日 「ジョン・セーリスの航海日記とイギリス船初の日本への航海」

14:00～15:30 講師：タイモン・スクリーチ氏（国際日本文化研究センター教授）

4月11日 土 「東洋文庫のコレクションによる日本へのまなざし」

14:00～15:30 講師：岡本隆司氏（早稲田大学教授、東洋文庫研究員）

※演題は変更となる可能性があります ※お申込み方法等、詳細は順次ホームページでご案内します

## ミュージアムワークショップ

「東洋文庫の名品で  
キー ホルダー をつくろう！」

4月26日 日

①10:30-12:00 ②14:00-15:30

※各回入替

※お申込み方法等、詳細は順次ホームページでご案内します

### 【開館時間】

10:00～17:00  
(入館は16:30まで)

### 【休館日】

毎週火曜日  
(祝日の場合は翌平日)

### 【ホームページ】

<https://toyo-bunko.or.jp/>



## 東洋文庫ミュージアム

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21  
駒込駅（JR山手線、東京メトロ南北線）徒歩8分、  
千石駅（都営三田線）徒歩7分、  
上富士前（都営バス上58系統・茶51系統）徒歩1分

# 六義園 Rikugien Gardens

和歌の心息づく雅な大名庭園



## スタンプ欄

特別名勝

## 六義園

■開園年月日 昭和13(1938)年10月16日

■開園面積 87,809.41m<sup>2</sup>

■開園時間 午前9時～午後5時

(入園は午後4時30分まで)

※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。

■休園日 年末年始(12/29～1/1)

■無料公開日 みどりの日(5月4日)

都民の日(10月1日)

■庭園ガイド(無料)

土、日曜日、祝日

(午前11時と午後2時の1日2回)

※気象状況等により実施を中止する場合があります。

当日の実施についてはサービスセンターにお問い合わせください。

## 【お問合せ先】

六義園サービスセンター

☎03-3941-2222

〒113-0021東京都文京区本駒込6-16-3

入園料	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (六義園)	年間パスポート (9庭園共通)
	一般	300円	240円	1,200円
65歳以上	150円	120円	600円	2,000円
無料			小学生以下(要付添)及び中学生(都内在住もしくは在学) 身体障害者手帳、ミライロID、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方	

六義園・旧古河庭園“園結びチケット” 一般 400円 65歳以上 200円

集会場 (貸室)	①午前の部 9:00～12:00	②午後の部 12:30～16:00	③1日 9:00～16:00
	心泉亭 全室(25名)	4,800円	4,800円
心泉亭 松・つじの間(17名)	3,600円	3,600円	7,200円
心泉亭 もみじの間(8名)	1,200円	1,200円	2,400円
宜春亭 茶室(5名)	7,400円	7,400円	14,800円

※6ヶ月前の同日午前10時から受け付けます。 ※別途入園料が必要です。



東京都公園協会全般に関する問い合わせ先  
東京都公園協会本社 TEL. 03-3232-3011 ※8:30～17:30 (土日・祝日、年末年始を除く)  
<https://www.tokyo-park.or.jp>  
発行：文化財庭園課 TEL. 03-3232-3018

23.10

指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会

## 文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。

震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

## 【庭園からのお願い】

○ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。

○写真撮影、写生は建物・添景物保護のためにお断りする場所があります。

○文化財は不定期で保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

○園内全面禁煙です。

喫煙所はありません。

## 都立文化財9庭園

浜離宮恩賜庭園

旧芝離宮恩賜庭園

小石川後楽園

六義園

旧岩崎邸庭園

向島百花園

清澄庭園

旧古河庭園

殿ヶ谷戸庭園

# 和歌の庭

六義園は五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった川越藩主・柳澤吉保が元禄15(1702)年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。当園は池をめぐる園路を歩きながら移り変わる景色を楽しめる繊細で温和な日本庭園です。園内には和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝、中国古典の景観が八十八境として映し出されています。

江戸時代の大名庭園の中でも代表的なもので、明治11年(1878年)、三菱の創業者である岩崎彌太郎の別邸となりました。その後、昭和13(1938)年に岩崎家より東京市(都)に寄付され、昭和28(1953)年に国の特別名勝に指定された貴重な文化財です。



## つづじ茶屋

明治年間、つづじの古木材を用いて建てられたものです。戦災をまぬがれ、現代にその希少な姿を伝えています。モミジの紅葉が見事です。



## 滝見茶屋

あずまやの横を渓流が走り、岩の間から落ちて水しぶきをあげています。あずまやは、滝や石組(水分石／みずわけいし)などの景観や水音が楽しめます。



## 石柱

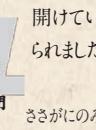
庭内の88ヶ所の景勝地(六義園八十八境)には、それぞれに石柱が建てられていきましたが、現在では32ヶ所のみが残っています。

## 園名の由来

六義園の名は、中国の詩の分類法(詩の六義)にならった古今集の序にある和歌の分類の六体(そえ歌、かぞえ歌、なづらえ歌、たとえ歌、ただごと歌、いわい歌)に由来したものです。柳澤吉保自身の撰した「六義園記」では、日本風に「むくさのそと」と呼んでいましたが、現在では漢音読みで「六義」を「りくぎ」と読む習わしから、「りくぎん」と読みます。

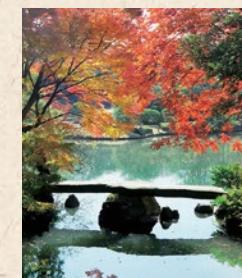
## 藤代峠

園内で一番高い築山で、標高は35m。いただきは「富士見山」と呼ばれ、そこからは素晴らしい展望が



## 蜘蛛道

古くはクモを「蜘蛛」と呼び、この小道がクモの糸のように細いことから名付けられました。



## 渡月橋

「和歌のうら 蘆辺の田靄の鳴くこゑに 夜わたる月の影ぞさびしき」の歌から名付けられた石の橋。2枚の大岩の重量感があり、あたりの雰囲気を引き締めています。

## 妹山・背山

中の島にある築山。古くは女性のことを妹、男性のことを背と呼び、この中の島は男女の間柄を表現しています。イザナギ、イザナミの故事にちなんだ「せきれい石」もあります。

※中の島には入ることができません。



## 出汐湊

大泉水の池畔の名のひとつ。眺望に恵まれ、右手に中の島、左手に蓬萊島、対岸に吹上浜が見えます。

## 内庭大門

庭園の中心に入るための門で、広場にはしだれ桜の大木が植えられています。



## 蓬萊島

神仙思想を主題とした石組の一種で、典型的な洞窟石組(アーチ形)の島です。

## 庭園ガイド

ボランティアガイドと一緒に園内を散策しながら六義園の見どころ、日本庭園の話、歴史の話、和歌の話などを聞いてみませんか。

※土曜日曜、祝祭日の午前11時と午後2時の2回、所要時間約60分(無料)